

今春卒4割国公立大合格

名寄高 過去10年間で最高

【名寄】名寄高（今中勇希校長）を今春卒業した生徒76人のうち、40・7%の31人が現役で北大などの国公立大学に合格した。合格率は少なくとも過去10年間で最高で、卒業生は過去最少ながら、合格者数も2016年度の38人に次いで多かった。進学、就職ともに教員と生徒がきめ細かいコミュニケーションを重ねて「自分のために、自分の道を開く」との姿勢を共有したことが、実績につながったという。

きめ細かな指導 実結ぶ

大学別の内訳は、2年連続で北大に1人が合格したほか、名寄市立大7人、釧路公立大6人、道教大岩見沢校と室蘭工大、北見工大、千歳科学技術大が各2人。道教大札幌校と道教大函館校、岩手大、新潟大、宇都宮大、高知大、札幌市立大、旭川市立大、高知工科大が各1人だった。

同校の近年の国公立大の合格者割合は、2020年3月の卒業生で21・2%だった。21年は18・7%、22年は24・2%、23年3月の卒業生が29・3%で、24年3月の卒業生で40%を超えた。

今春の卒業生たちの担任は、同じ教諭3人が3年間務めた。当時の学年主任で、現在教務部長の山本真平教諭は「担任団として、学力の前に人としての根幹をつくる」との共通目標で結束したと振り返る。

「総合的な探求の時間」の授業では、さまざまな分野の外部講師に話をしてもらうなど、知的好奇心を刺激し、モチベーションを高める工夫を続けた。4月に急逝するまで進路指導部長だった吉田香織教諭は「人の話を聞き、耳を傾けられる学年だった」と評価して

いた。

学習指導面では、成績上位者だけでなく、前回のテストより順位が上がった生徒を「下克上ランキング」として表彰。参考書や問題集の見本を廊下の机に置き、いつでも手が取れるようにした。

一人一人の志望校の傾向に対応し、古文や漢文、小論文などの個別指導にも力を入れ、面接指導では市民の協力も得た。

山本教諭は「名寄から進学の夢をかなえられると理解してほしい。地元の高校を選んでマイナスはない」として、部活動も含めた生徒たちの頑張りをアピールしている。

（星野真）